The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

アルゴスの花嫁たち
——エウリーピデース『エーレクトラー』におけるコロス——[1]

浜　本　裕　美

エウリーピデース『エーレクトラー』は，エーレクトラーの弟オレステースの復讐譚を題材にする．この神話的題材自体は既にホメーロスにおいてよく知られた物語であり[2]，トロイアー戦争から戻ったエーレクトラーの父アガメムノーンを，その妻クリュタイメーストラーが愛人アイギストスと共謀して殺害する．それに対し，父親の復讐のため，オレステースは母親とその愛人を殺害するのである．この神話を題材にした三大悲劇詩人の作品はいずれも現存し，エウリーピデース劇の独創性を伺い知ることができる．顕著な特徴として，エーレクトラーが国境地帯に嫁がされていること，そして場面がその辺境の地に設定されていることが挙げられる．その地でエーレクトラーは，弟の帰還とそれに続くべき復讐の成就を待ち望んでいるのである．ポリスの中心から遠く離れた場面設定は，エーレクトラーの孤立を決定的なものとし，彼女が既婚であることを通じて，結婚を中心

1　テクストは，Basta Donzelli, G. 2002, *Euripides Electra*, Monachii et Lipsiae に依拠している．辞書や雑誌名，古典の出典表記は慣例に従う．また，以下の文献については著者名と出版年で指示する．Cropp, M. J. 1988, *Euripides Electra*, Warminster; Denniston, J. D. 1939, *Euripides Electra*, Oxford; Foley, H. P. 2001, *Female Acts in Greek Tragedy*, Princeton and Oxford; 平田松吾 2002『エウリピデス悲劇の民衆像—アテナイ市民団の自他認識—』岩波書店; Kubo, M. 1967, "The Norm of Myth: Euripides' *Electra*," *HSCPh* 71, 15-31; March, J. 2001, *Sophocles Electra*, Warminster; Rosivach, V. J. 1978, "The 'Golden Lamb' Ode in Euripides' *Electra*," *CPh* 73, 189-99; Zeitlin, F. I. 1970, "The Argive Festivals of Hera and Euripides' *Electra*", *TAPhA* 101, 645-69（= Mossman, J.（ed.）2003, *Euripides*, Oxford, 261-84）.

2　この題材を扱った先行作品については，cf. Denniston 1939, ixff., Cropp 1988, xliiiff.

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

とする女性の在り方に大きな焦点が当てられていると考えられる[3]．さらにエーレクトラー自身が積極的に母殺しに加担することによって，クリュタイメーストラー殺害は女性同士の軋轢の結果としても描き出されることになると言えるだろう．本劇が母殺しを最大の山場にすると考えられる以上，本劇における女性性を考察することは本劇全体の理解にも貢献すると期待できる．

女性性の観点から本稿が取り上げたいのは，本劇の女性コロスである．コロスの歌については，諸々の研究者が主に主題やモチーフに焦点を当てた解釈を提示しているが[4]，本劇においてコロスの存在がいかなる役割を果たしているかについて正面から取り上げられて来たとは言い難い[5]．本稿では，コロスがエーレクトラーとの関係を通じて描き出されることに着目し，本劇における女性性の布置を検討したい．それは本劇において，どのような女性性を持つかということとポリスとどのような関係を持つかということの二点が密接に結びついていることの指摘に繋がるだろう．まずはパロドスのやり取りの検討を中心に，コロスとエーレクトラーの関係を考察する(I)．続いて，クリュタイメーストラーについて触れる(II)．最後に，それまでの検討をふまえて劇の末尾を取り上げる（III）．こうした議論を通じて，コロスがエーレクトラーとポリスを繋ぐ多層的な共同性を担う存在として描かれていることを論じたい．

I

コロスとエーレクトラーとの関係を最も印象的に描き出しているのは，パロドスにおけるヘーラー祭への言及である[6]．コロスは入場と同時に，オルケーストラーにいるエーレクトラーに呼びかけアルゴスのヘーラー祭開催を告げる（171-4）．

---

3 Cf. 平田 2002, 68-70.

4 コロスの歌を中心とした主な先行研究については，cf. 平田 2002, 95, n.8.

5 例外的に平田は，コロスを民衆の代表と位置づけ，エーレクトラーを激励し，復讐を支持する役割を果たしていると指摘する（85f.）．

6 Cf. Zeitlin 1970.

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

ἀγγέλλει δ' ὅτι νῦν τριταί-/ αν καρύσσουσιν θυσίαν/ Ἀργεῖοι, πᾶσαι δὲ παρ' Ἥ-/ ραν μέλλουσιν παρθενικαὶ στείχειν.

(sc. 伝令が) 告げています，今から三日目の供儀をアルゴス人たちが布告している，そして乙女たちは皆 ヘーラーのもとへ行列するだろうって.

それに対し，エーレクトラーはこのように断っている (175-80).

οὐκ ἐπ' ἀγλαίαις, φίλαι,/ θυμὸν οὐδ' ἐπὶ χρυσέοις/ ὅρμοις ἐκπεπόταμαι/ τάλαιν', οὐδ' ἱστᾶσα χοροὺς/ Ἀργείαις ἅμα νύμφαις/ εἱλικτὸν κρούσω πόδ' ἐμόν.

親しい方たちよ，着飾るのにも，黄金の首飾りにも，心浮き立ちはしないのです，哀れな私は，それに，歌舞団を率いて，アルゴスの花嫁たちと一緒に，私の足を回して打ち鳴らすつもりもありません.

このやり取りが，王宮からの追放と不完全な婚姻関係故に，宗教行事に参加することも適わず，属すべき共同体を持たないエーレクトラーの社会的孤立を露わにすることは，既に指摘されている[7]. 本稿では，ここに看取されるコロスとエーレクトラーの関係について，より詳細に検討してみたい.

この応答が持つ捻れに注目しよう. つまり，コロスが「乙女たちは皆行列する」と言うのに対し，エーレクトラーは「アルゴスの花嫁たちと一緒に」歌い踊るつもりはないと断ることを取り上げる (173-4, 178-80).「乙女」が「花嫁」に,「行列」が「歌舞」に替わっているのはなぜか. まず，歌舞は行列の途中で行われることもあるため，二つは一連の儀礼行為を指していると理解可能である[8]. それでは，女性を指す二つの語はいかに理解できるのだろうか. この二つの語は同一の集団を指して用いられていると理解さ

7 平田 2002, 64-66; Zeitlin 1970, 648-50.

8 Cf. Kavoulaki, A. 1999, "Processional performance and the democratic polis" in Goldhill, S. and Osborne, R. (edd.) *Performance Culture and Athenian Democracy*, Cambridge, 300.

9 Cropp 1988, ad 179.

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

れており，その理解は妥当なものだと思われる[9]．勿論，παρθενικαί が未婚女性を，そして νύμφαι が花嫁あるいは妻を指すことで，二つの語が社会的地位の区別を含意する場合もあるが[10]，νύμφαι の指示対象は，未婚娘，花嫁，既婚女性に広がっており[11]，この場合は παρθενικαί（174）が指す未婚女性の集団と同一の女性集団を指していると考えてよいだろう．エーレクトラーは，コロスの言葉を言い換えているのである[12]．

二つの語の考察に入る前に，エーレクトラーの微妙な立場に注意を喚起しておく必要がある．彼女はアイギストスによって農夫に嫁がされ社会的には人妻だが，その婚姻関係は完全なものではない．農夫が彼女に手を触れようとしないため「彼女は未だに乙女 παρθένος δ' ἔτ' ἐστὶ δή」なのである（43-4）．こうしたエーレクトラーの状況を考えると，女性を指すのに二種類の単語が用いられ，なおかつそれを彼女自身が言い換える形で口にすることには，単に韻律の都合や反復を忌避するためという以上の意味があると考えられる．また，本劇のコロスは，エーレクトラーに祭りの衣裳を貸そうと申し出ていることから祭儀のきらびやかな姿で登場していると考えられ（190-2）[13]，加えて後に「乙女たち παρθένοι」（761）と呼びかけられることから未婚娘と想定されるため，彼女たち自身がヘーラー祭で行列と歌舞を担う乙女 παρθενικαί だと理解できる[14]．とすれば，エーレクトラーの言い換えは，コロスに向けられたものと考えられ，両者の関係を探る上できわめて重要な手掛りになるであろう．

---

10 E.g. *Ody.* 11. 38-40（cf. Heubeck A. and Hoekstra A. 1989, *A Commentary on Homer's Odyssey II*, Oxford, ad loc.）

11（未婚女性）*Il.* 9. 560, S. *Trach.* 527;（花嫁）*Il.* 18. 492;（既婚女性）*Ody.* 4. 743, 11. 447, E. *Med.* 150（cf. Mastronade, D. 2002, *Euripides Medea,* Cambridge, ad loc.）.

12 Zeitlin 1970, 650, n. 22.

13 Foley 2001, 235; 平田 2002, 66; Kubo 1967, 23; cf. Zeitlin 1970, 647, n.11. 但し，祭り当日でないからという理由で，この見解に反対する研究者もいる（Hammond, N. G. L. 1984, "Spectacle and Parody in Euripides' *Electra,*" *GRBS* 25, 374）．勿論断定は不可能だが，衣装への言及が具体的に為されていることに加えエーレクトラーとの視覚的対照の効果は大きい．またアイスキュロス『コエーフォロイ』における黒衣のコロス（10-12）との対比が意図されているとも考えられる．さらに本劇に限らず競演におけるコロス上演と視覚的効果の重要性が指摘されていることにも留意されたい（Foley, H. 2003, "Choral identity in Greek tragedy," *CPh* 98, 3）.

14 Cf. Cropp 1988, 111f.

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

i

では，女性を指す二つの語を取り上げよう．παρθενική（あるいはπαρθένος）に比して，νύμφη はその指示対象の広がり故に捉えにくい概念である．まずは，その概念をできるだけ明瞭に把握するためにνύμφη についての先行研究を検討したい．その上で，エーレクトラーの言い換えが示唆する，彼女とコロスの関係の考察に移ることにしよう．

さて，女性の社会的地位の観点から，νύμφη を位置づけようとするのはCalame である．彼は結婚直後の女性の特異な立場に関心を向け，未婚か既婚かではなく，(1) 未婚娘 παρθένος，(2) 結婚から第一子出産までの新妻νύμφη，(3) 出産後の妻 γυνή という三つの社会的地位を措定する[15]．確かに，結婚後出産までの時期の女性が特別な過渡的地位に置かれていたとの解釈は有益であるし[16]，その時期の女性が特にνύμφαιと呼ばれ得たとの理解も有効だと思われる．しかし，上述したようにνύμφη の指示対象は，結婚対象の娘から，花嫁，子供がいる既婚女性まで，結婚前後，出産前後を跨いで広がっており[17]，彼が理解するように，結婚出産を境にした女性のある特定の時期を指すと見なすのは困難だと思われる．この語を理解するにはあまりに限定的な捉え方だと言えよう．その指示対象の広がりから見て，ある時期の女性の社会的地位を指すというよりは，女性性のある様相を指示する語と考えるのが適当ではないだろうか．

そして，この指示対象の広がりの問題に取り組んだ Andó は，νύμφη の本質をその語が持つセクシュアルな含意に求めている．νύμφη が性的魅力を持つこと，これがνύμφη 性だとの主張である．ただ Andó の論が受け容れがたいのは，自身の分析と完全には一致しない形で，それを社会制度，

15 Calame, C. 1999, *The Poetics of Eros in Ancient Greece*（tr. Janet Lloyd）, Princeton, 125ff. しかしながら，論拠とされるテクストの解釈には大いに疑問が残る．νύμφη の時期を確定する例とされる神話において，当該のニンフは出産後もνύμφη に留まっていると考えられるし（Ap. Rhod. 2. 508f.），三つの地位が明瞭に区別されている例とされるキュレネの法については，νύμφηの指示対象が既婚女性か否か明瞭ではない．γυνά についての箇所が流産に関する規定であることに加え，CalameはSokolowski（115A.73f. Suppl.）に依拠してπαρθένος の補いを採用するが，この補いを採らない校定者もいる（Rhodes, P.J. and Osborne, R.（edd.）2004, *Greek Historical Inscriptions : 404-323 BC*, Oxford, n. 97）.

16 Cf. e.g. Lys. 1.6.

17 註11を参照.

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

夫との関係から独立した身体的成熟と捉える点である[18]. しかしながら νύμφη の語は,「花嫁」が原義と考えられることから見ても[19], やはり「結婚」という社会制度から切り離しては考えられないだろう.

結婚と性的魅力を有機的に理解した研究として, 両者に先行する Detienne があげられる. 彼は, νύμφη を, 娘コレーと母親メーテールの中間と位置付け, 婚姻直前の若い女性と第一子出産以前の新妻がそれにあたるとするが, 彼の考察は主に「新妻」に向けられている. 子を生して十全な妻になるために性的魅力を放つべき存在で, その魅力のため危険な過渡的な状態にあると理解されている[20]. この解釈が説得的なのは, 女性の性愛的側面を, 生殖的機能を通じて婚姻制度の中に位置づけることに成功しているからである. そこから νύμφη 性は, 婚姻の文脈において女性の性愛的側面と生殖的機能が表裏一体に結びついたところにあると理解できるのではないだろうか. しかし, Detienneの考察は主に「新妻」に焦点を当てたものであり, νύμφη の指示対象の広がりを説明し尽くしているとは言えない. だが, 出産を期待する婚姻関係に内在的な女性の性愛的側面を, 女性のある時期に固有の在り方の分析としてではなく, 未婚女性から出産後の女性までが共有しうる一つの側面として捉え直すことは十分可能だと思われる. というのは, 花嫁や新妻の性的魅力が喚起するのは, 出産に結実する婚礼の床であり, そこには新郎となる男性の存在やその男性との関係性が含まれている. νύμφη 性が「夫」との関係性を内包するが故に, 未婚娘は「(将来の) 花嫁 νύμφη」とも呼ばれうるし, 子を持つ既婚女性も「(婚礼の床を共有する) 妻 νύμφη」と呼ばれうると説明できるのではないだろうか[21].

νύμφη が未婚女性を指示する場合, その女性は文脈によっては παρθένος

18 Andó, V. 1996, "*Nymphe*: La sposa e le Ninfe," *QUCC* 52, 47-79

19 Chantraine, P. 1946/47, "Les noms du mari et de la femme, du père et de mère en grec," *REG* 59/60, 230.

20 Detienne, M. 1974, "Orphée au miel," in Le Goff, J. and Nora, P. (edd.) *Faire de l'histoire* III, Paris, 56-75 (cf. Calame *ibid.*, 123f., 127).

21 註11を参照.

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

と呼ばれうる存在である[22]．この相違は何に発するのか．*παρθένος* は単に未婚娘という地位を示すだけでなく，結婚を避け性的領域に立ち入らない態度を示唆すると理解できる．この点で，*νύμφη* が婚姻関係を喚起するのとは明確な対比をなすのである．結婚に対する態度の違い，これが二つの語の根本的な相違点だと言えるだろう．

ii

以上の検討から，エーレクトラーの言い換えは，コロスにある特定の女性性を付与するものであり，二つの語の間には結婚に対する態度の相違が含意されていることが確認できたと思われる．それでは，この言い換えが両者の関係について示唆するのは何だろうか．エーレクトラーがコロスに対し断る際の台詞全体（175-80）を取り上げつつ考察したい．

まず，ヘーラー祭開催を告げるコロスの言葉の意図があまり明瞭でないことを指摘しておきたい．エーレクトラーは，その辞退から明らかなように自分が祭儀に誘われていると理解したし（175-89），それに応じるコロスの言葉は，エーレクトラーの祭儀参加を促すものになっている（190-7）．しかし，先に引用した台詞だけでは（169-74），コロスはエーレクトラーを祭儀に誘っているとは言い切れないし，さらに誘っているとしても，彼女が祭儀にどのような形で参加することを想定しているのかも曖昧である．

コロスは「乙女たちは皆*πᾶσαι ...παρθενικαί*」（173-4）と口にするが，エーレクトラーは「乙女」なのだろうか．エーレクトラーが乙女なのかどうかという問いは，コロスの入場までに既に触れられている．先に見たように，農夫はエーレクトラーは「未だ乙女だ *παρθένος δ' ἔτ' ἐστὶ δή*」（44）と語ったが，その後登場したオレステースは「人々の言うところでは，結婚の軛に繋がれて暮らし，もう乙女ではないそうだ*φασὶ γάρ νιν ἐν γάμοις/ ζευχθεῖσαν οἰκεῖν οὐδὲ παρθένον μένειν*」（98-9）と口にする．こうした言葉は，既婚でありつつ乙女のままという，エーレクトラーのあやふやな状態に注意を喚起す

22 たとえばソフォクレース『アンティゴネー』において，ハイモーンの結婚相手として *νυμφεία* と呼ばれていたアンティゴネーは，自殺の後 *παρθένος* と呼ばれている（568, 1237; cf. 633, 797）．Cf. also S. Trach. 858, 895, 1219.

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

るものだと言える．これまであまり注目されていないが，コロスの言葉は，直接的に誘いかけを示すものではなく，社会的には明らかに既婚女性であるエーレクトラーに対するものである以上，「乙女」の集団に彼女を誘っているのかどうか，その意図が曖昧なのである．

勿論，祭儀開催を告げに来たコロスは，何らかの形でのエーレクトラーの祭儀参加を想定しているだろう．しかし，エーレクトラーが応じたように，行列や歌舞への参加という仕方ではなく，たとえば見物人としての祭儀参加を念頭においているという可能性も捨て切れない．見物人として祭儀に参加することは，歌舞や行列を担うのと同様に重要であった．コロスは，エーレクトラーに祭儀開催を告げ，その場に赴くよう促しに来たに過ぎないかもしれないのである．それに対し，既に指摘があるように，エーレクトラーの拒絶は，あくまで乙女集団の率い手，王家の娘という姿勢で為されている．「歌舞を率いる」のは王家の者こそに相応しい役目である[23]．しかし，今の彼女は社会的には乙女ではなく，王家の者でもない[24]．したがって彼女の拒絶は，そもそも実現し得ないことを断る過剰なものだと言えるだろう．それだけではない．エーレクトラーは父のため喪に服しており，服喪は祭儀に参加しない充分な理由となりうるのである[25]．しかし，彼女が服喪だけでなく拒絶のよりはっきりとした理由として挙げるのは，自分の身なりである：「私の汚い髪，私のみすぼらしい襤褸を見て．王女たるアガメムノーンの娘に相応しいでしょうか *σκέψαι μου πιναρὰν κόμαν/ καὶ τρύχη τάδ' ἐμῶν πέπλων,/ εἰ πρέποντ' Ἀγαμέμνονος/ κούραι τᾶι βασιλείαι*」(183-7)．この彼女の理由付けは，単に祭儀に参加しないことを説明しているのではなく，先程の過剰な拒絶への説明となっている．その際に彼女は，自分の現在の状況ではなく，身なりが問題であるかのように振る舞っているのである．しかし，コロスの申し出に応じて（190-3）衣裳を借りたとしても彼女が王女に戻れる筈はない．彼女の拒絶とその理由付けは，単に祭

23 Denniston 1939, ad 178; 平田 2002, 66; Zeitlin 1970, 649.

24 平田 2002, 66; Rosivach 1978, 191; Zeitlin 1970, 649.

25 Lloyd, M. 1986, "Realism and Character in Euripides' *Electra,*" *Phoenix* 40, 6-7; also cf. Stehle, E. 2004, "Choral Prayer in Greek Tragedy: Euphemia or Aischrologia?," in Murray, P. and Wilson, P. (edd.) *Music and the Muses*, Oxford, 136, nn.9, 10.

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

儀に参加するしないを問題にする以上に，彼女の自分自身の状態への過敏さと祭儀という契機に対する複雑な心情を示唆するものだと考えられるのである[26].

エーレクトラーの言葉に読みとれる過敏な反応にも拘わらず，この台詞において彼女は，コロスに対して苛立ちを示しているようには思われない．むしろコロスの入場に際し，エーレクトラーとの親しさが描き出されているように思われる．直前のエーレクトラーの独唱歌（112-66）とこのパロドスは，内容には落差があるものの韻律上緊密に結びつき[27]，彼女の歌に参加する形でコロスは劇中に導入されると言える．パロドス自体，両者のやり取りで構成され，「親しい方たち*φίλαι*」「子*παῖ*」（175, 197）との互いの呼びかけは，両者の相互的な信頼関係を示唆するだろう[28]．両者の信頼関係を確認することができるのは，この冒頭場面に限らない．たとえば，エーレクトラーはオレステースとのやり取りに際し，コロスに沈黙の約束を取り付ける必要を感じていない．それほどにコロスはエーレクトラーにとって親しい存在として描かれているのである（272f.）[29]．エーレクトラーの拒絶には，両者の親密さと，コロスが告げる祭儀という契機への彼女の過敏な反応がないまぜになっていると言える．

社会的には *παρθενικαί* の一員ではないエーレクトラーが *νύμφαι* と言い換えるとき，その語が持つ既婚，未婚にまたがる両義性に彼女は恐らく自覚的である．*νύμφαι* という語は既婚女性の彼女を排除しない．この表現を

---

26 Zeitlin 1970, 651. Cf. 311 *ἀναίνομαι γυναῖκας οὖσα παρθένος*. この行について異なる読みを採用する校定者もいるが（*ἀναίνομαι γὰρ γυμνὰς οὖσα παρθένους*, Kovacs, P. D. 1985."Castor in Euripides' *Electra*（*El.* 307-13 and 1292-1307）." *CQ* 35, 311ff.），その見解に対しここに引いた広く受け入れられている読みを擁護する十分な反論が提出されている（Seaford, R.1985, "The destruction of limits in, Sophocles' *Electra," CQ* 35, 319 n.38）．Kovacs のテクスト自体は説得性を欠くが，ここでのエーレクトラーの台詞がパロドスのやり取りを喚起するものであるとの指摘は有益だと思われる．

27 Cropp 1988, 111.

28 Denniston 1939, 87 は，エーレクトラーが年齢差故に未婚娘との交流を躊躇ったと想定する．だが，彼が留保を付けつつ提案する25歳位という年齢設定は根拠のない憶測に基づいている（xxvi）．むしろ，Cropp 1988 が指摘するように20歳を超えているかいないかという比較的若い年齢を想定すべきだろう（xxxvi）．それでもなお結婚適齢期の女性との年齢差を指摘しうるかもしれないが，エーレクトラーが年齢差故にコロスとの交流に困難を感じていると考える十分な理由はない．

29 Cf. Barret, W. S.（ed.）1964, *Euripides Hippolytus*, Oxford, ad 710-12.

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

拒絶の語として用いることで，既婚女性が乙女集団への参加を断るというエーレクトラーの辞退の空回りが幾分和らげられるのではないだろうか．未婚娘のコロスと既婚女性のエーレクトラーは，異なる仕方ではあるが共に *νύμφαι* と呼ばれうるのである．エーレクトラーの言い換えは，既婚でありながら殊更に乙女集団への参加を断ることの矛盾を和らげつつ，コロスと自分を同一集団に帰属させるエーレクトラーの側のコロスとの近さや親近感を示すものだと言えるだろう．

ただし，*νύμφαι* の語はエーレクトラーとコロスの近さを示すだけではない．重要なのは，その同じ語が両者の距離をも露わにしている点である．先述したように*νύμφαι* は，出産に結実する婚姻の床に結びつく性的魅力を喚起する語である．社会的には新妻であり，*νύμφη*と呼ばれるに相応しいエーレクトラーだが，髪を削ぎ，みすぼらしい姿の今の彼女は，こうした本来の花嫁，新妻の姿からかけ離れている．こうしたエーレクトラーとコロスの視覚的対比は，非常に際だったものだと考えられる[30]．エーレクトラーとは対照的に，祭儀の衣裳に身を包み着飾っていると想定されるコロスは，*νύμφαι* という色めきだった語によく適うのである．恐らくコロスが身に纏っている飾りとしてエーレクトラーが言及する「黄金の首飾り」(176-7) には性的な連想が伴うし[31]，結婚適齢期の女性が着飾って公衆の面前で歌舞を披露すること自体が，婚姻の文脈を呼び込んでいるとも考えられる[32]．単に公的な場であるだけでなく，それが結婚の神ヘーラーを祭る祭儀であることもその点を強調するだろう．コロスが，これから花嫁となり，出産を経て十全な妻になろうとする女性として描き出されるのに対し，エーレクトラーは結婚しても生娘に留まっており，その婚姻は成就することがない[33]．したがって，*νύμφαι* という語により，これからの期待に満ちたコロスと行く手を閉ざされたエーレクトラーの距離が露わになり，顕著な視覚的対比は，両者の婚姻に対する立場の疎隔としても捉え直すことができるだろう．

---

30 平田 2002, 66; Zeitlin 1970, 647, n.11.

31 Buxton, R.G.A. 1982, *Persuasion in Greek Tragedy*, Cambridge, 36-8.

32 Cf. Lonsdale, S. H. 1993, *Dance and Ritual Play in Greek Religion*, Baltimore and London, 206ff.

33 Cf. Zeitlin 1970, 650, n.21.

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

iii

以上の考察により，エーレクトラーの言い換えが，彼女とコロスとの親密さと疎隔を示唆するものであることを指摘した．そして，両者の疎隔は各々の結婚との関係によって規定されていると言える．しかしその疎隔は，婚姻を巡るものに留まらない．アルゴスのポリスとの関係においても両者は隔たりを見せ，それは両者の女性性の相違に繋がりを持つのである．

ヘーラー祭といった祭儀は宗教的場であるだけでなく，ポリス成員の社会的絆を強化し，再確認する場でもある[34]．ポリスの一体感を表象するヘーラー祭に何の躊躇いもなく参与できるコロスと参加を断るエーレクトラーの間には，大きな溝があると言えるのではないだろうか[35]．

パロドスのやり取りを再度取り上げよう（171-80）．エーレクトラーの言葉「アルゴスの花嫁たちΆργείαις...νύμφαις」にある「アルゴスの Άργείαις」という形容詞は，コロスの告げた直前の「アルゴス人たちは Άργεῖοι」を受けている．アルゴスの νύμφαι とは，アルゴス人と結婚する女性に他ならないだろう．先にも触れたように，未婚女性の歌舞上演は将来の婚姻に繋がる契機となり得ることに加え，これは結婚の女神ヘーラーの祭儀である．したがってコロスは，結婚，出産を通じて，共同体の未来を繋ぐ存在だと言えるだろう．コロスの女性性は，アルゴスのポリスに密接に結びつく．それに対し，エーレクトラー自身社会的には「アルゴス人の花嫁」であるにも拘わらず（35, cf. 248），その婚姻は彼女にとって「死のような婚姻θανάσιμον γάμον」（247）でしかない．彼女の婚姻は，アルゴスとの絆を与えるどころか，むしろ彼女の居場所を失わせたものである．したがって「アルゴスの花嫁たち」との表現は，コロスのアルゴスとの絆を明示すると同時に，エーレクトラーのアルゴスからの疎外感をも含んでいると言えるだろう．

こうしたエーレクトラーのポリスからの疎外感は，彼女自身のポリスへの帰属意識の薄さと軌を一にするように思われる．それは，エーレクトラー

34 Zeitlin 1970, 648, cf. n.15.

35 こうしたコロスの存在は，エーレクトラーの嘆きがポリスの営みから遠く取り残されていることを露にするだろう．エーレクトラーの嘆きはそれに応じる共同体を欠いているのである（哀悼行為が集団の応答を伴うことについて cf. Foley 2001, 152）．そのことは同時に，アイギストスによるポリス支配の日常化を示唆していると考えられる（cf. Rosivach 1978, 191）．

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

が一貫してアガメムノーンをアルゴスの王というよりは，ヘッラスの長と捉えていることに看取されるだろう．エーレクトラーがアガメムノーンの名を口にするとき，その多くは彼のトロイア遠征への言及を伴い（160-1, 186-9, 336, 681, 880-1, 916-7, 1082），農夫がアイギストスが簒奪した王位の印とした王笏（11f.）についても，彼女はそれを「ヘッラス人らを指揮した王笏」（321）と語ることにより，アガメムノーンをギリシア軍の総大将として提示する．エーレクトラーは，アルゴスの王女というよりは，トロイアーを破ったヘッラスの王の娘という自己認識を持っていると考えられるのである（cf. 21）[36].

エーレクトラーの疎外感や帰属意識の希薄さは，アルゴス人への不信感にも繋がっている．彼女は，アルゴス人がアイギストスに加担するのではないかという危惧を抱いているのである．アイギストス殺害の報告を待つエーレクトラーは，遠くの声を耳にし，コロスに尋ねる：「あの嘆きはアルゴス人のかしら，それとも私の親しい者たちのでしょうか *Ἀργεῖος ὁ στεναγμὸς ἢ φίλων ἐμῶν;*」（755）．だが，オレステースがアイギストスは他の市民とともにいるのか奴隷を連れているだけなのかを尋ねた際に，老人は「アルゴス人はいません，奴隷だけです*οὐδεὶς παρὴν Ἀργεῖος, οἰκεία δὲ χείρ*」（629）と告げていた．彼女は，アルゴス人が自分たちに敵対するアイギストスの仲間としてその場に居合わせていると考えているかのようである．彼女のアルゴス人からの距離感が，はっきりと見てとれるだろう．この場面において彼女の認識からは，自分やコロスもまたアルゴスの一員であることが抜け落ちているのである[37].

---

36 エーレクトラーによるこうしたアガメムノーン像の提示は，彼がいかに偉大な英雄であったかを強調する狙いがあると思われる．第一スタシモンに見られるように，クリュタイメーストラーの夫殺害の重大さを強調する意味もあるだろう（Denniston 1939, xviii）．しかしそのことは，アガメムノーンを一つのポリスに限定しないという意味で，彼女がアルゴスのポリスを特別視しないという理解と相互排除的ではない．このように人物を一つのポリスに限定しない描き方をする例として，E. *Her.* のヘーラクレースが挙げられる（cf. Bond, G. W. 1981, *Euripides Heracles*, Oxford, 153f.; 拙稿「エウリーピデース『ヘーラクレース』におけるリュコス殺害」『哲学誌』第42号，108-23）．

37 Cf. 963（*ἐκ Μυκηνῶν μῶν βοηδρόμους ὁρᾶις;*）．姉弟のいずれに帰属する台詞かについて異論があるが，どちらの台詞にせよ，アイギストスの殺害後もなお姉弟のいずれかにアルゴス人に対する不信感が根強いことを示している．

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

このようなエーレクトラーのアルゴス人からの距離とコロスのポリスとの繋がりは，本劇におけるポリス像の提示に関わりを持つ．本劇のスケーネーは，ポリスの中心にある王宮ではなく国境地帯にある農夫の小屋であり，この辺境性は，エーレクトラーの王家からの疎外を決定づけるものである．コロスは「町から遠いので，ポリス内の悪事を知らない *πρόσω γὰρ ἄστεως οὖσα τὰν πόλει κακὰ / οὐκ οἶδα*」(298-9) と語っている．「ポリス」という語は，統一体としてのそれを指して用いられる一方 (587, 611, 848, 1250, 1313)，狭義には中心の市街地を指して用いられているのである (298, 595) [38]．しかし，ポリスの中心つまり市壁内 (101) と辺境という対立軸は決して絶対的なものではない．この辺境の地もまたアルゴスの一部であり (cf. 1-3)，ヘーラー祭という契機がポリスを統一体として眺める視座を提供していると言えるだろう．

パロドスで言及されているのは，アルゴスのヘーラー祭と呼ばれるアルゴスの守護神ヘーラーを奉るポリス最大の祭儀と考えられる．本劇においても，ヘーラー祭がその公的性格に加えて，ポリス全体が統一体として祭儀に臨む統合性を備えていることは，「アルゴス人たちが」という成員を限定しない指示の仕方や「布告する *καρύσσουσιν*」という言葉づかい，また「乙女たちは皆」という表現から伺える[39]．エーレクトラーたちが住む山村にまで伝令が祭儀開催を告げに来たこと自体，中心と辺境の対置を含むポリスの領域全てにその祭儀が及ぶことを示すものだと言える．さらに，一般にポリス祭儀の場におけるコロスは，特定の性別，社会的身分でありながらも，共同体の代表として振る舞っていると理解されうる[40]．したがって，ポリスの中心と辺境を対置すると同時にそれらに一体感を与える視座が，ヘーラー祭の導入を担うコロスの存在と言葉に内包されていると言えるだろう．コロスは，エーレクトラーと同様に辺境の地に住まいつつも，将来の「アルゴスの花嫁」としてアルゴスのポリス全体に繋がる紐帯を保っているのである．

---

38 Cf. Denniston 1939, ad 595, cf. also ad 641.

39 Rosivach 1978, 191.

40 Cf. Stehle, E. 1997, *Performance and Gender in Ancient Greece: Nondramatic Poetry in Its Setting*, Princeton, 26f.

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

iv

この両者の疎隔を最もよく表しているのが，アイギストス殺害の受け止め方だと思われる．殺害を報告する使者の両者への呼びかけから，そのずれがアルゴスへの態度の相違を一因とすることが明らかになると思われる．

アイギストス殺害を報告するためにやって来た使者は，登場するや否や「勝利麗しい，ミュケーナイの乙女たちよ *ὦ καλλίνικοι παρθένοι Μυκηνίδες*」(761) と呼びかける．ここにおいても先に検討した「アルゴスの花嫁たち」と同様に，女性を指す語がアルゴスの地（ミュケーナイ）との結びつきを伴うことが注目に値する．まず，役者がコロスに対し「乙女たち」と呼びかける例は非常に珍しく，「乙女」との呼びかけには単に社会的地位としての未婚女性をさす以上の含意があると考えられる[41]．ここでの呼びかけは，報告の受け手が誰よりもエーレクトラーであることから，彼女を筆頭に彼女とコロスを一つの集団として為されたものと理解できるだろう[42]．だとすれば「乙女」との呼びかけは，第一にエーレクトラーに向けられたものではないだろうか．というのは，彼女は，アイギストスの死により現在の結婚から解放され，社会的にも乙女に戻る可能性に開かれている[43]．使者の呼びかけは，こうしたエーレクトラーの状況を意識したものとも考えられるのである．エーレクトラーとコロスの間にあった身分上の疎隔は解消されうると言えよう．

しかし，女性としての身分の隔たりは解消されうるとしても，コロスとエーレクトラーが示すアルゴスへの帰属意識のずれは，修正されないままである．「ミュケーナイの *Μυκηνίδες*」という形容詞は，オレステースの勝利がアルゴスの地の支配権移行に結びつくものであり，彼女たちがそれをアルゴス（ミュケーナイ）人として祝うことを当然とする使者の認識を示すものだろう．そしてこの認識をコロスも共有していることが，アルゴス

41 現存作品では，本劇のこの箇所を除き，単数形の例が S. *Trach.* 1275に確認できるに留まる（この例も確実にコロスを指すとは言い切れない cf. Easterling, P. E. 1982, *Sophocles Trachiniae*, Cambridge, ad loc.）．未婚女性の場合にも，呼びかけにはしばしば *γυναῖκες* が用いられる（例えば未婚娘のコロスに対して E. *Phoe.* 278, 991; S. *Trach.* 225, 385, 663, 673）．

42 Cf. Cropp 1988, 111. 直前の両者のやり取りでコロスがエーレクトラーの自殺を止めようとしていたことは，使者が呼びかけた時点での両者の空間的近さを示唆する．

43 平田 2002, 69f.

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

の一員として王権移行を祝う歌に明らかだと思われる：「今やかねてからの我々の親しき王が，大地を治めることになるのです *νῦν οἱ πάρος ἁμετέροι/ γαίας τυραννεύσουσι φίλοι βασιλῆς*」(876-7)．しかしながら，コロスが祝勝歌を歌いつつ自分たちの歌舞に誘うのに対し (860-5)，エーレクトラーは会話の韻律イアムビックで応える．そして，コロスの歌舞への誘いに応じることなく，小屋の中に入ってしまう (866-72)．続いてコロスが王権復帰を喜ぶ件の際にはオルケーストラーに姿がない (874-9) [44]．勿論，エーレクトラーがオレステースの勝利をコロスとともに喜んでいることは明らかだが[45]，コロスとエーレクトラーの韻律の違い，エーレクトラーの歌舞への不参加と一時的な不在は，両者のオレステースの勝利に対する温度差を強く示唆するのではないだろうか[46]．王権簒奪者の死をアルゴスの一員として喜ぶコロスと，そうした視点を欠くエーレクトラーのずれは，エーレクトラーがコロスの誘う歌舞に加わらないことによって印象づけられているように思われる．エーレクトラーにとっては，母の死こそが復讐成就だと考えられるのである (cf. 281) [47]．

これまで，エーレクトラーとコロスが，相互的な信頼関係を持って描き出されつつ，女性性とそれに密接に結びつくポリスとの関係の点でのずれを見せることを論じてきた．個人的紐帯が彼女たちを結びつける一方で，両者の疎隔のもとにあるのは，コロスのポリスとの繋がりだと言える．さ

---

44 Kubo (1967, 23f.) はエーレクトラーがオルケーストラーに留まった可能性を示唆するが，両者のやり取りから考えて説得的とは言い難い．

45 Easterling, P.E. 1988, "Tragedy and Ritual," *Metis* 3, 106; Zeitlin 1970, 656f.

46 エーレクトラーは，復讐を家の問題と捉えていると考えられる．この復讐の受け止め方は，エーレクトラーが女性であることにも理由の一端は求められうるかもしれないが，同じく女性であるコロスとの対照に注目されたい．Cf. S. *El.* 973-85 (cf. March 2001, ad loc.).

47 というのは，エーレクトラーにとって，父の殺害と農夫との婚姻関係に代表される現在の窮状は，クリュタイメーストラーを通じて分ち難く結びついている．女性としての在り方が，彼女の復讐の捉え方にも影響を及ぼしていると言えよう．クリュタイメーストラーの死を復讐の第一義とする彼女の態度は，オレステースのそれと対比されうる．オレステースにとって，復讐は父の敵を討つという点において神託にも裏打ちされた倫理的要請であると同時に，継承すべき支配権を奪還することを意味している．アイギストスの死により，父の敵討ちは半分しか果たされていないにせよ，オレステースは正統な継承者として王位を継承し，放浪生活に集約される苦境から脱しうるのである．こうした両者のずれは，オレステースが母殺しの前から躊躇を示しているのに，エーレクトラーが後になって初めて後悔するという母殺しに見せる両者の態度の相違の一因だと考えられる (967-87, 1182-4, 1204-5, 1224-6).

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

て，女性性とポリスとの関係という二点において，エーレクトラーの対極にあるのがクリュタイメーストラーである．

II

クリュタイメーストラーは，きらびやかな衣裳を身に纏い，恐らく同様に着飾ったトロイアーの女奴隷たちを連れて登場する（966, 998-1003, cf. 314-18）．みすぼらしいエーレクトラーは，祭儀のため着飾っていると考えられるコロスとクリュタイメーストラーたちに囲まれて，視覚的に一層際だったのではないだろうか[48]．コロスは，エーレクトラーの友人でありながら，視覚的にはクリュタイメーストラーたちと同一集団を形成するかのような印象を与えうると思われる．エーレクトラーとの対比において，クリュタイメーストラーはコロスに類似した特徴を持つのである．

コロスは，クリュタイメーストラーにまず「アルゴスの地の女王 βασίλεια γύναι χθονὸς Ἀργείας」（988）と呼びかけ，彼女に敬意を表した．コロスの恭しい挨拶は，復讐の実行を助けるものであると同時に，アイギストス殺害への祝勝歌に看取された，復讐をアルゴスの王権移行に結びつける態度と軌を一にするものである．クリュタイメーストラーは，女王としてアルゴスの中心に位置するのみならず，アイギストスとの間に子を生し，その支配の継承の可能性を開いている（988, 62）[49]．彼女は，前夫を裏切ったものの，現在なお十全な妻であり母親として結婚の成就を手にし，結婚を通じてアルゴスの地に結びつけられているのである．エーレクトラーが成就しない婚姻と王家からの追放を蒙っているのと極めて顕著な対照を為していると言えよう[50]．それだけでなくクリュタイメーストラーの婚姻こそが，アイギストスに支配権を与え，エーレクトラーを今の窮状に追いやった原因であった．加えてクリュタイメーストラーは，アガメムノーンを非難する際に自分とアガメムノーンの愛人を「二人の花嫁 νύμφα δύο」（1033）と呼

48 パロドスとクリュタイメーストラーの登場場面の類似性については指摘が為されている（Zeitlin 1970, 657）．

49 Cf. S. *El.* 589. 二人の間の子供は，先立つ伝承では確認できない（Cropp 1988, ad 62）．

50 Zeitlin 1970, 651.

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

んでいる．コロスがこれから獲得するであろう婚姻とそれを通じてのアルゴスとの結びつきを，クリュタイメーストラーは既にこれ以上無い形で実現しているのである．

コロスの存在は，クリュタイメーストラーとエーレクトラーの相違を際立たせつつ仲介するものだと考えられる．先に見たように，コロスはこれから結婚に向かうアルゴスの一員であった．コロスは「アルゴスの花嫁」として描き出される限りにおいてクリュタイメーストラーに比せられる立場にあるが，未だ未婚である点において乙女であるエーレクトラーに近いと言えるだろう．母娘の争論に差し挟まれるコロスのコメントは，「思慮深い妻ならば，すべてのことにおいて夫に従わねばなりません *γυναῖκα γὰρ χρὴ πάντα συγχωρεῖν πόσει,/ ἥτις φρενήρης*」(1052-53) との一節を含んでいる．もちろん一般的なものではあるが，こうした発言はエーレクトラーがアイギストスの死体に投げかけた非難を思い起こさせるだろう (*πᾶσιν δ' ἐν Ἀργείοισιν ἥκουες τάδε·/ Ὁ τῆς γυναικός, οὐχὶ τἀνδρὸς ἡ γυνή./ καίτοι τόδ' αἰσχρόν, προστατεῖν γε δωμάτων/ γυναῖκα, μὴ τὸν ἄνδρα·* 930-3)．エーレクトラーの結婚観が社会通念の枠に留まっていることは，彼女自身が未だ生娘であることに適うものだが[51]，コロスの発言もまた彼女らの社会的地位から逸脱しないものだと言える．またコロスが着飾っているとすれば，クリュタイメーストラーとの視覚的親縁性がコロスの花嫁性を強調し，コロスがエーレクトラーともクリュタイメーストラーとも共通する特徴を備えていることが一層際立つことになるだろう．

クリュタイメーストラーは，エーレクトラーにとっては，実際には血縁でありながら彼女がコロスに抱くような親愛を全く欠いた憎しみの対象として提示されている．エーレクトラーの側から見た両者の関係性は，婚姻における立場の違いとポリスとの関係に看取された彼女とコロスの隔たりのみを結晶化するかのようである．クリュタイメーストラーは，エーレクトラーに対し「子よ」(1102, 1106) と呼びかけて親愛を示すが，エーレクトラーは激しい憎悪に駆り立てられて母親殺しに突き進んでいくことになる (cf. 281, 1182-4)．

51 Cf. 平田 2002, 80.

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

III

母殺しの後，自分たちの行為を嘆く姉弟にたいし，デウス・エクス・マーキナーとして現れたカストールが二人の今後を告げる．エーレクトラーに告げられたのはピュラデースとの婚姻であり，それはアルゴスからの退去を意味した．追放を直接に告げられるのはオレステースだが，エーレクトラーが「私たちを父の館から，母を殺した呪いが引き離すのです」(1323-4) と嘆くことからわかるように，結婚による退去は追放と同列に語られている (cf. 1305)．本劇では，エーレクトラー自身オレステースとともに母に手をかけていると理解できるため (1224-5, 1303-4)，彼女の婚姻とアルゴスからの退去は，オレステースの追放と並ぶものとして提示されていると考えられるのである[52]．これまでの議論から，エーレクトラーが花嫁となることの持つ含意，そしてポリスとの関係に由来した彼女のコロスとの疎隔について考察しておきたい．

最後にエーレクトラーは，花嫁となるべく退場する (*νυμφεύου/ δέμας Ἠλέκτρας* 1340-1)．彼女はクリュタイメーストラーと同様に，妻となり子を生す存在とされているのである[53]．出産を口実として産みの母を殺害した彼女にとって，新たな親子関係を繋ぐことは母殺しに回帰する契機となりうるように思われる．だとすれば，花嫁となり母親になることは，クリュタイメーストラーの立場に身を置き，その行為の理由をいくらかでも実感し，その価値観を理解することに繋がるかもしれない．そのことが，エーレクトラーにこれから求められる償いなのではないだろうか．

そしてエーレクトラーの婚姻は，アルゴスとの繋がりを断ち切る形で実現することになる．そのことを彼女は最大の嘆きとするのである．該当箇所を見てみよう．オレステースが彼女と自分の身の上を嘆くのに対し，カストールは彼女には嘆くべきことはない，「アルゴス人たちのポリスを離

52 Cf. Foley 2001, 240 (エーレクトラーの婚姻を罰と捉えている)；エーレクトラー自身は母殺しの剣に手をかけなかったと考える研究者もいるが (Willink, C. W. 1986, *Euripides Orestes, Oxford*, ad 1235-6, cf. Cropp 1988, ad 1225)，本劇での彼女の台詞 (1224-5) は殺害の状況を語ったものであり，比喩的と考える必要はないだろう (cf. Foley 2001, 239, 240; March 2001, 7)．

53 Cf. Cropp 1988, ad loc.

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

れること以外は」(1312) と応じる．それに対し，エーレクトラーは「アルゴス人たちのポリス」を「祖国」と言い換え，「祖国の地の境界を立ち去ることより大きな嘆きがあるでしょうか」と口にするのである (1314-5) [54]．アルゴスの地は彼女にとって父祖伝来の土地でもあり，「祖国 γῆς πατρίας」(1315) と「父祖の館 πατρίων/ μελάθρων」(1323-4) から引き離されることへの嘆きは，本来自分が属すべきであり，復讐によって取り戻す筈であった居場所を永遠に失ってしまったことへの悲しみに満ちていると言えよう．

こうしたエーレクトラーの変化には，クリュタイメーストラーとの絆の再認識が並行していると考えられる．彼女はオレステースとともに，クリュタイメーストラーの遺体を衣服で包むという埋葬行為を行った (1227-31) [55]．この儀礼行為は，二人が母親クリュタイメーストラーに対し子として振る舞う所作に他ならない．エーレクトラーはクリュタイメーストラーに対し「親しくかつ親しくない女 φίλᾳ τε κοὐ φίλᾳ」(1230) という形ではあるが，親愛の情を示していたのである．彼女は殺してしまった後になって，漸く憎しみの的でしかなかったクリュタイメーストラーが産みの母であり，親愛の対象でもあったことに気づいている．彼女は，母親を殺したことで母親と祖国を一時に失い，失うことでその絆を再認識するに至ったと言えるだろう．

このようにアルゴスの地との絆を再認識した上で，彼女は「ご機嫌よう，ポリスよ．そしてあなたたちもどうぞご機嫌よう，ポリスの女たちよ」とポリスとコロスに呼びかけ，退場する (1334-5)．コロスを「ポリスの女たち」と呼び，ポリスと並べて呼びかけることは，両者の結びつきを認知す

54 平田は，エーレクトラーが別れを惜しむ「ポリス」をコロスとの絆に限定する (2002, 87f.)．しかし，「アルゴス人たちのポリス」を受けて口にされる「祖国の地」はアルゴス全体を指すと考えられるし，続けて「父祖の館」から引き離されることを嘆くことから見ても，彼女がここで嘆いているのは自分の故郷からの退去のように思われる．平田のここでの「ポリス」についての解釈は，エーレクトラーのコロスに対する態度が変化したとの見解に繋がっている．母殺し後の彼女の変化に積極的な意味を与えたのは平田の功績であるが，この変化がコロスに対する態度にまで及んでいるとは言い難い．平田の主張する貴族的価値観からの脱却という意味での彼女の変化は，貴族との婚姻を喜ばないことと，コロスに別れの言葉をかけて積極的意味を付与することの二点から了解されうるように思われる．Cf. 吉武純夫 2003「市民は下層市民に倣って非市民を肯定せよ (?)」『ペディラヴィウム』第55号, 35-7.

55 Cropp 1988, ad 1227; Denniston 1939, ad 1228.

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

るものだと言えよう[56]．彼女は自分とコロスの親愛関係もまたアルゴスのポリスの一部だと気づいているのである．パロドスにおいて，彼女が「アルゴスの花嫁たち」と口にしたときの疎外感はそこにはない．エーレクトラーが「ポリス」と呼びかけること自体注目に値する．というのは「ポリス」は，空間的な広がりだけではなく市民団を指す語でもある[57]．カストールが「アルゴス人たちのポリス πόλιν Ἀργείων」(1313) に言及する前に，「アルゴスの市民たち Ἄργους πολῖται」(1277) がアイギストスを埋葬すると告げていることもそれを強めるだろう．アルゴス人に対し疎外感と不信感を抱いていたエーレクトラーだが，そのポリスに今は手向けの言葉を贈っている．したがって，ここで彼女は単に故郷の地からの離別を悲しんでいるだけでなく「アルゴス人たちのポリス」を何らかの意味で肯定していると理解できるだろう．この変化は何に由来するのだろうか．

コロスはエーレクトラーとも，アルゴスのポリスとも紐帯を保つ多層的な共同性を持って描き出されていた．だとすれば，その変化は，呼びかけの併置が示すように，ポリスと繋がりを保つコロスとの絆を通じてこそ可能になったものだと言えるのではないだろうか．コロスとの個人的絆が，エーレクトラーにアルゴスのポリスに目を向け直す素地を与えていたのである．コロスのポリスとの紐帯に由来したエーレクトラーとコロスの疎隔は，故郷の再認識に加え，自分たちの共同性もまたポリスの一部であったとのポリス観の表明によって解消されると考えられるだろう．

結　び

本稿では，コロスは，エーレクトラーと個人的絆を築きつつ，ポリスとの繋がりを保つ多層的な共同性を担う存在として描き出されていることを論じてきた．コロスのポリスとの繋がりが，両者の疎隔のもとにはあり，

56 この呼びかけは，古典期アテーナイにおいて，女性は市民団に参与できないことからも注目に値する．Cf. 平田 2002, 92f. 但し，πολίτιδες (1335) には語調を合わせるといった配慮も働いているように思われる．

57 上野慎也 1999「ポリス＝市民団――イデオロギー性の証明――」『地中海学会研究』第22号，43-64.

NII-Electronic Library Service

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University

それは両者の女性性と密接に結びついていたのである．そして，エーレクトラーが劇末尾で見せるポリスへの態度の変化は，故郷の再認識に加えて，コロスとの紐帯を通じて獲得されたものだったと言えるだろう．コロスは，辺境の地にポリスの存在を導入することでエーレクトラーのポリスからの疎外を提示すると同時に，彼女との個人的親愛関係を通じて，彼女とポリスを繋ぐ役割をも果たしていると考えられるのである[58]．

---

58 本稿は東京都立大学哲学会第29回大会（2005.7.9）における口頭発表原稿をもとにしている．阿部伸，大芝芳弘，小林薫，齋藤貴弘，佐野好則の諸氏に貴重な御意見や御指摘を戴いた．記して深謝したい．

＊本稿は，日本学術振興会特別研究員として，科学研究費補助金の交付を受けて行った研究の一成果である．

NII-Electronic Library Service